

池原 昭治

さやまの伝説

第121話



むかしのお話
 その昔、不老川の上流入間市の藤沢から入曾あたりは雑木林が生い茂り、川すじも今のようにまっすぐでなく、幾重にも蛇行していたそうです。
 その中に、べえつくびの淵」という底なしの淵がありまして、そこに河童が住んでいたそうです。このあたりは地下水脈があちこちへと通じておりまして、入間川、柳瀬川、林川へと行き

来することができました。そのため、べえつくびの淵の河童は、よく人間川まで出掛けていき、笹井のタケ坊河童のところへ遊びに行っていたそうです。
 村境には庚甲塔があり、旅人以外はほとんど通りもなく、それはそれはさびしくて恐いところだったといえます。その不老川の周辺には水にまつわる妖怪の話が語り伝えられています。
 「小雨のシヨボシヨボ降る夕方に、小豆洗い」とい

う、正体不明の妖怪がシャゴシヤゴと音を出し、旅人を驚かす話「や日が暮れるころ、川端の道を歩いてみると、土手の向こうにキツネ火が現れる…これはおとうかさまの嫁入り」といわれ、キツネ火がふわりふわりと飛んだ話」。
 これら「河童」、「小豆洗い」、「キツネ火」の話は、梅雨どきには武蔵野あたりでよく語られるむかし話です。



狭山が発祥の地

童句

童句は、自分が童心に帰って詠む俳句です。狭山市童句研究会の選による作品を掲載しています。

祖母の梅酒	日付わたしの	誕生日	渡川 誠
体着	名札濃く書く	更衣	佐藤 桂子
雨避けて	じっと葉の裏	かたつむり	大沢 久美
湖めぐる	スワンボートへ	靑嵐	高橋 幸子
留守番の	一人あやとり	梅雨の雲	木村 鈴子
ちぢむだけ	ちぢみ	尺取虫あるく	

創始者 土家由岐雄

何かな？ 今月の写真クイズ

写真は、今月号に掲載した写真を拡大したものです。何ページの何の写真でしょうか？

正解者の中から、抽選で5名に記念品を差し上げます。官製はがきで広報課あてにお送りください。

締切り6月30日(木・当日消印有効)

5月10日号の答え

9ページ・ひと・まち写真館の「こいのぼりが大集合！」の写真でした。



表紙の写真

5月21・22日(土・日)、都市緑化植物園内の緑の相談所で、約120点の切り花を展示した春のバラ展が行われました。また、園内にあるバラ園でも、赤、黄、ピンクなど色鮮やかなバラが咲き誇り、訪れた方たちは、バラの香りや色合いを楽しんだり、春のバラを満喫していました。



狭山市公式モバイルサイトのQRコード
 QRコードに対応した携帯電話で読み取ると公式モバイルサイトへ簡単にアクセスできます